

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりの長所を伸ばし、「考動力」のある生徒、違いを認め合える豊かな人間性を持った生徒を育成する
各々が充実した学校生活をおくる中で将来の目標を見つけ、自らの人生を切り拓く力を育むことをめざす
- 1 生徒の可能性を伸ばし、希望する進路の実現を図れる学校
 - 2 一人ひとりに個性を活かした活躍の場があり、互いに尊重し合える学校
 - 3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り、地域から信頼され、愛される学校

2 中期的目標

1. 確かな学力の定着と希望進路の実現
- (1) 「わかる授業」「力がつく授業」の推進
 - ア 教員間の授業公開や研究、生徒による授業評価等を活かし、授業改善を推進。学習内容の定着や、思考力や判断力、表現力等を育む取り組みを進める
 - (2) 将来を見通した進路指導と希望する進路の実現
 - ア 自学自習を支援し、授業外の学習習慣の定着、意欲と学力の向上をめざす
 - ※ 学校教育自己診断「授業外学習への取り組み」R10 年度に生徒 70%以上（R5：68%、R 6：51%、R 7：60%）をめざす
 - イ アドバンスクラスでは高い進路目標の実現をめざし、達成感と目標に向かう力を育む
 - ウ アクティブ専門コース（音楽・スポーツ）等の充実を通して生徒の長所や得意分野を伸ばし、自己肯定感や意欲、リーダーシップ等の育成を多角的に図る
 - エ 生徒が自分にふさわしい進路目標を立て、積極的に挑戦し、粘り強く取り組み、実現させることができるよう、進路指導部・学年等を中心に指導・支援する
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）「進路や生き方について考えられるよう、情報提供されている」を R10 年度に 90%以上（R5：88%、R 6：88%、R 7：88%）
 - (3) 一人ひとりのニーズに応じた支援の充実
 - ア 生徒一人ひとりの状況やニーズに応じた指導・支援・配慮を、本人・保護者・外部機関などと連携して行う
2. 豊かでたくましい人間性の育成
- (1) 部活動や学校行事等の充実
 - ア 学業との両立を促し、より強い達成感や充実感が得られるようにする
 - イ 生徒会等を中心に行事の企画・運営を行うことによって自治意識を高め、協働する力、困難を乗り越える力等を経験させる
 - (2) 基本的な生活習慣の改善・定着
 - (3) 人権や多様性の尊重
 - ア 授業・HR 活動等を通して、他者を理解し尊重する心や態度を養う
 - イ 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、保護者や関係機関等との連携を密にすることによって、相談しやすく、安心・安全な環境を確保する
3. 創立 50 周年を見据えた魅力づくりと発信
- (1) 広報活動のさらなる充実
 - ア HP や SNS、学校見学会・行事などで、保護者や中学生、地域などへ効果的に学校の魅力を発信する
 - (2) 国際交流活動等の推進
 - ア 海外の学校と交流を持ち、姉妹校提携を通じて国際交流の環境を整え、生徒が多様な文化を体験したりして視野を広げることができるようにする
4. 開かれた学校づくりと学校力・教員力の向上
- (1) 地域等との連携推進
 - ア 探究や部活動、生徒会活動等を通して、大学等外部団体や外部人材、地域との連携・協働を進める
 - (2) 経験年数の少ない教職員の育成
 - (3) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく働き方改革の推進
 - ア 業務の見直しや ICT の活用などで、校務の効率化を図る
 - イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日などを設定して適切な指導・運営体制を構築する
 - ウ ゆとり週間などの取組みを通じ、休暇を取得しやすい環境を整備する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容		評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と希望進路の実現	(1) 「わかる授業」「力がつく授業」の推進	ア	学力向上委などを中心に、授業改善に努める。教員間の授業見学の機会を増やし、課題を共有する教科や学年で生徒情報の共有を徹底。授業を補完する予習・復習、宿題、講習などを連携させ、学習効果を高めていく	ア 授業見学週間の設定 3 回 [3 回] 学校教育自己診断（生徒）「わかりやすい授業」80%以上[80%]	
	(2) 将来を見通した進路指導と希望する進路の実現	ア	学力向上委を中心に、学習支援クラウドサービスなどを活用し、授業外の学習充実を支援する	ア 学校教育自己診断（生徒）「授業外での学習の取り組み」60%以上[60%]	
		イ	アドバンスクラスでは高い進路目標の実現をめざし、達成感と目標に向かう力を育む	イ 同（教員）「学習意欲の高い生徒に対する取り組み」80%以上維持[84%]	
		ウ	高大連携などを活用して、アクティブ専門コースがより魅力的な内容を探る	ウ アクティブコースの次年度選択者数 60 人以上を維持[71 人]	
		エ	生徒が自分にふさわしい進路目標を立て、実現に向けて自ら取り組んでいけるよう進路指導部・学年等を中心に指導・支援する	エ 学校教育自己診断（生徒）「進路実現のための支援が充実」90%以上を維持[91%]	
	(3) 一人ひとりのニーズに応じた支援の充実	ア	様々な背景を持つ子供一人ひとりの状況やニーズに応じた指導・支援・配慮を、就学支援委員会を軸に本人・保護者・関連機関などと連携して行う	ア 支援の具体的状況	
2 豊かでたくましい人間性の育成	(1) 部活動や学校行事等の充実	ア	各クラブ内での学習支援の推進 行事や部活動の終了時刻、ノークラブデーの徹底などにより、学習との切り替えを促す	ア 学校教育自己診断（保護者）「学習・部活動の両立」75%以上[74%]	
		イ	生徒会等の活動を充実させ、生徒が主体になって行事などを運営できるよう支援し、思考力・判断力・実行力などを育む	イ 同（生徒）「行事は生徒を中心に運営」95%以上を維持[95%]	
	(2) 基本的な生活習慣の改善・定着		あいさつや交通マナーなどの指導により、規範意識の向上に取り組む また、時間厳守を徹底することにより、けじめのある生活を定着させる	学校教育自己診断（生徒）「社会生活に必要な能力を身につけることができる」90%以上を維持[94%]	
	(3) 人権や多様性の尊重	ア	授業や行事を通じ、違いを認め合い共生する姿勢を育てる	ア 学校教育自己診断（生徒）「平和や人権について学ぶ機会がある」80%以上を維持[89%]	
		イ	教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、スクールカウンセラーらと協力し、生徒が声をあげやすい環境をつくる	イ 学校教育自己診断（生徒）「悩みを相談できる先生がいる」70%以上を維持[74%]	
∞ 創立50周年を見据えた魅力づくりと発信	(1) 広報活動のさらなる充実	ア	SNS や動画配信サービスの公式アカウントを活用した広報活動を実施 メール配信システムなどでタイムリーな情報発信につとめ、保護者との協力体制を強化する	ア 学校見学会年 3 回を維持 来場者（中学生＋保護者）数計 1000 人以上を維持[1179 人] 学校教育自己診断（保護者）「連絡が適切」85%以上を維持[91%]	
	(1) 国際交流活動等の推進	ア	国際交流委員会などを中心に、姉妹校提携の締結をめざす。海外の生徒らとの交流機会を増やす	ア 姉妹校提携や国際交流の具体的な状況	
4 開かれた学校づくりと学校力・教員力の向上	(1) 地域等との連携推進	ア	地域の中学校との交流イベント「香里フェス」「香里カップ」の開催継続 授業・行事の公開、生徒会活動などを通じて保護者や地域との連携を深める また、探究や部活動などを通じて大学等外部団体や外部人材との連携・協働を進める	ア 「香里フェス」「香里カップ」5 部以上開催[5 部] 各部の参加校数維持[ソフトボール 13、サッカー 5、ソフトテニス 6、女子バスケ 12、吹奏楽 20] 学校教育自己診断（生徒）「授業・部活動・行事で保護者や地域の人々とかかわる機会」75%以上[77%] 連携・協働の具体的状況	
	(2) 経験の少ない教員らの育成		経験の少ない教職員がスムーズに業務にあたれるよう、勉強会や研究事業を通して指導していく	経験の少ない教員向けの勉強会「香里会」を年 10 回以上[23 回] 取組みの具体的な状況	
	(3) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく働き方改革の推進	ア	ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る	ア 年間の時間外在校等時間が 720 時間超の教職員をゼロにする	
		イ	部活動の年間・月間計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動とする	イ 年間時間外在校等時間が 360 時間超の人数を減らす	
		ウ	ゆとり週間・月間の徹底に取組み、年休取得を促す	ウ 年次有給休暇の平均取得日数を 10 日以上にする	